

# 横山幸次

区政報告  
ニュース

## 553

2014年10月5日  
発行 日本共産党区議団  
3802-4627  
fax 3806-9246  
✉ arajcp@tcn-cat  
v.ne.jp

町屋相談室  
荒川区町屋5-3-5  
3895-0504  
✉ yoko1951@aol.jp

横山幸次区議のホームページ・ブログ・ツイッターを  
ご覧下さい。横山幸次で検索して下さい。

# 荒川2丁目複合施設… 総事業費が87億円超!?



総括質疑を行う  
横山幸次区議

**総事業費**  
用地費16億円  
工事費61億円  
その他、図書、文学館などの設備関係で10億円

企業名	入札額	落札
熊谷組、坪井工業、東工務店JV	41億4072万円	落札
前田建設	44億2800万円	
大林組	46億2123万円	
長谷川コーポレーション	52億9200万円	
3回目の予定価格 42億1192万円 (2回目入札の予定価格 41億4700万円) 今回予定価格は事後公表 すべて税込みの金額です		

複合施設は、5階建・床面積1万㎡の、中央館機能の図書館(57万冊)、子ども施設、小ホール、吉村昭記念文学館などを併設する大型施設です。

お寄せください。

## 区民のくらしを最優先にした区政執行を

2013年度の決算によると区財政は、決算剰余金(赤字分)23億円、基金残高・区の貯金が250億円、起債残高・区の借金200億円となっています。区民の暮らしは、消費税8%増税、物価値上げ、賃金の減少など、景気回復どころか景気後退悪化な



## 予算全体は、マイナス5%のシーリング 大型施設建設は「聖域」見直し無し!?

一方、区が最大の目玉として計画している荒川2丁目複合施設(図書館、文学館、子ども施設)の建設工事入札は、2回目まで全事業者が辞退で不調、3回目でもやっと落札しました。しかし用地費や建設工事、図書館などの設備関係

### 横山区議の総括質疑項目

- 1、区民生活の困難が深刻になる中で来年の消費税10%増税を止めるべきと考えるが区の見解を問う
- 2、子どもの貧困対策に関連して  
生存権に関わる差し押さえ禁止財産の機械的差し押さえをやめ、事前の調査などきちんと行い、憲法25条の精神にたった対応を求め  
全庁あげて苦難に直面する区民に寄り添って問題を解決するため、関係部署がよりいっそう連携を強め、貧困などで苦しむ区民への支援につなげること

示してきました。この中で、ふれあい入浴の段階的廃止、オムツ代補助への所得制限導入などささやかな福祉施策も削減されています。また、区の公共施設の多くは、老朽化が激しく大規模改修が必要

裏面 産業振興センター  
とものづくり再生...など

## 定例法律相談会

10月6日(月)  
午後6時~8時  
横山区議事務所

弁護士と横山区議が相談をお受けします。秘密は厳守します。お急ぎの場合は、北千住法律事務所の相談日などご紹介いたします。  
生活相談は、随時受け付けています。  
TEL&FAX 3895-0504  
不在時は、留守電へ、後で連絡します。  
区役所控室 3802-4627



三宏木材の工場と駐車場など



また一つ旭電化通りから老舗の事業所が消えた  
どう生まれ変わるのか、地域のこれからの影響も  
旭電化通りにある老舗の事業所「三宏木材工業」が川口市に移転。これから通りの拡幅もあって、この通りは商店街としていかに維持し発展することが出来るか、まさに正念場という感じがします。ひよっとすると「マンション」とか「建て売り住宅」になってしまうのでは?商店街の衰退は、地域コミュニティの衰退とも関係があります。地域コミュニ

横山幸次



# 荒川の「ものづくり再生」と産業振興センター



墨田区産業振興センター



相談員が機器の操作を説明



ものづくりの仲間が集まって、飛行機づくり



NC旋盤など工作機械



各種精密検査機器類...



同時5軸マニシングセンタ

## 産業振興基金11億円の活用を

消費税8%増税、引き続き円安・原材料費高もあって個人消費も国民総生産も落ち込んでいます。一部の輸出大企業が大儲けていますが、地域経済は深刻です。こんなときこそ区民生活の底上げと地域商店や製造業を支援する自治体の役割発揮が求められています。

荒川区のものづくり・製造業の集積は、いまでも小規模でも多種・多様な業種に彩られています。

荒川区は、当初、産業振興センターをつくり、区内産業の支援の本格的な場と体制をつくることを検討。そのための基金・積み立てを11億6千万円（当初15億円で出発）持っています。しかし、いつのまにか検討は、立ち消えになり、基金はそのまま。いまこそこれを生かした施策が必要です。

墨田区では、中小企業振興基本条例を1979年に制定、それを受けて翌年には、区内事業者も参加した検討会を経て、地上6階建ての中小企業センターを建設しました。

そこに技術専門相談員（現在30人配

置）を配置し精密測定機器・工作機器などと会議室も設置。その他工業スクール講座なども実施し、約80人近い体制で発足しました。きびしい経済環境のもとでも、「同時5軸工作機械」など最新機器の導入なども行い、年間約720件の利用です（利用者は、区外の事業者も半数）。「ものづくりのまち荒川の再生」に向けて、「区の本気の伝わる支援策を11億円の基金活用も含めて具体化する」としています。

墨田区は、条例制定前に186人の係長級職員を総動員して区内事業者の調査を行ったのは有名。85年当時墨田区内で約10000万の企業データが整備された。

### どうなる駅前開発

## 動き出す？三河島駅北地区開発...

三河島駅北側は、木造密集地域...



「コンサル」を選び直し再開発準備組合再出発  
三河島南地区再開発・プランズタワーが9月26日に竣工し、受け渡し完了。住宅増に対応した保育園・学校対策が課題になっています。

次に、三河島駅を挟んで北側地区でも再開発が動き出そうとしています。以前に準備組合が設立され、いろいろ問題があったようです。あらためて、準備組合がコンサルタントを選び直して事業をすすめるようとしています。

対象地域の最大の地権者は、旧真土小学校（5,184㎡）を持つ荒川区です。それだけに区民の声を十分聞いた取り組みが必要です。



旧真土小学校庭



## 西日暮里駅前再開発どうなる!?

西日暮里駅前市街地再開発も準備組合が発足。コンサルタントも決まり、さらに事業具体化にむけ資金提供などに協力するデベロッパーを公募している。

この地域は、旧道灌山中学校4,271㎡、ひぐらし保育園938㎡、通所サービスセンター679㎡と区の所有が合計5,888㎡。道路8,15㎡も含めて約6割が荒川区の土地。ここでも荒川区が最大の地権者で、開発用地の提供で終わりというわけにはいきません。区民生活に役立つ事業となるのか、責任が大きく問われてきます。

